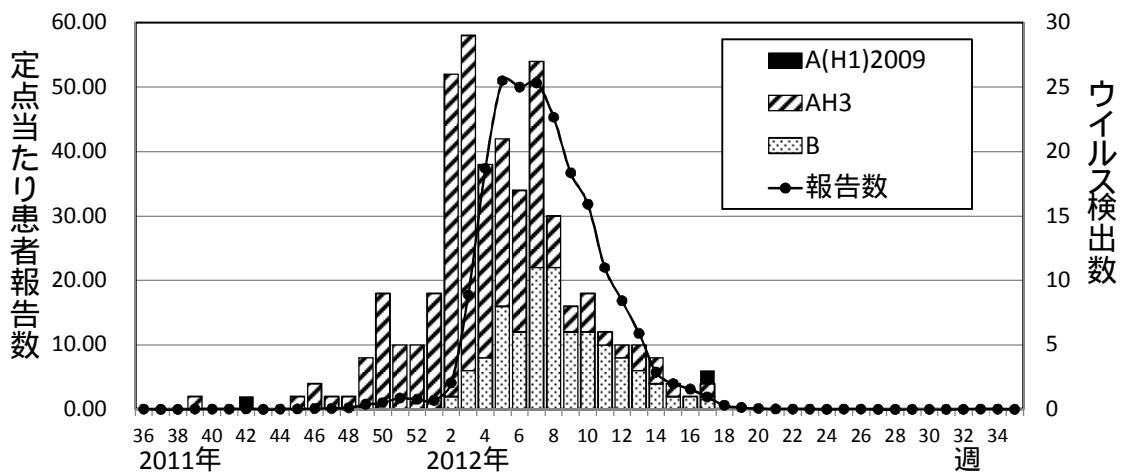


## インフルエンザ(2011/12シーズン)

2011/12シーズンのインフルエンザ流行は、前半はAH3亜型、後半はB型ウイルスが主体となった一峰性の流行でした。インフルエンザ(H1N1)2009 ウイルス(以下、A(H1)2009と略記)の検出は全国的に非常に少なく、県内での検出も2件のみでした。下図に、2011/12シーズン(2011年第36週～2012年第35週)の県内における定点当たり患者報告数の推移及びインフルエンザウイルス検出状況を示しました。

2009年にパンデミック(世界的大流行)を引き起こしたA(H1)2009の出現以降、それ以前のAH1亜型(ソ連型)ウイルスは姿を消しており、現在はA(H1)2009が季節性インフルエンザウイルスとして扱われています。



定点当たり患者報告数の推移及びインフルエンザウイルス検出状況  
(2011年第36週～2012年第35週)

2011/12シーズンの全国の各型及び亜型のインフルエンザウイルス分離株について、抗インフルエンザ薬(ノイラミニダーゼ阻害薬4種類:オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、及びラニナミビル)に対する耐性変異の有無を国立感染症研究所が調査したところ、AH3亜型300株中1株にオセルタミビル及びペラミビル耐性株が認められました(ザナミビル及びラニナミビルに対しては感受性)。A(H1)2009の9株及びB型265株には耐性株は認められませんでした。我が国の抗インフルエンザ薬使用量は非常に多いので、今後も薬剤耐性変異の出現状況の監視が必要です。

2009年のパンデミックを除けば、近年のインフルエンザ流行には複数種類のウイルスが関与しています。今年9月以降もすでに県内ではAH3亜型及びA(H1)2009が、県外ではそれらに加えてB型も検出されています。

病原体定点の先生方には、検体採取をよろしくお願いいたします。

インフルエンザに関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ (<http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-m/1974-idsc/iasr-flu/2782-iasr-influ20121101.html>) でご覧になれます。

また、抗インフルエンザ薬耐性株調査については、 (<http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-m/2068-flu/flu-dr/2907-flu-dr20121107.html>) でご覧になれます。